

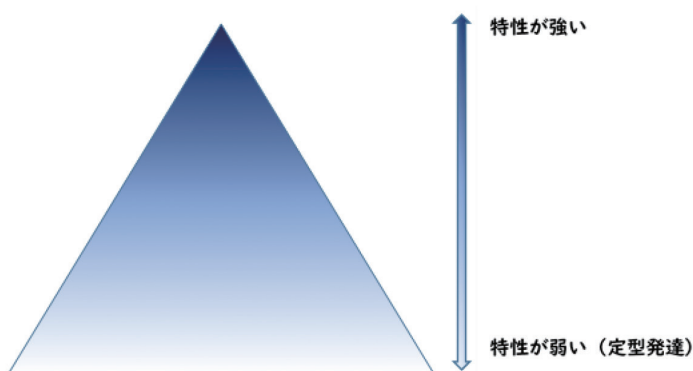
【前編】発達特性と発達障害

総合診療科・心療内科 毛利由佳

最近、発達障害という言葉を目にする機会が多くなってきましたが、そもそも発達障害とはなんですか!?そして発達障害と発達特性はどう違うのでしょうか!?

**発達特性とは、生まれつきの脳神経発達の特徴です。
発達特性がある＝発達障害となるわけではありません!!**

特性は「有る無し」できれいに分けることが難しく、近年はスペクトラムとしてとらえています。スペクトラムとは「連続体」を意味します。グラデーションを思い浮かべていただくと想像しやすいかもしれません。特性を色の濃さで表すと一番濃い色から無色まで切れ目なくつながって表されます。



発達特性を持つ方々のうち、その特性がその方の生活環境において問題を起こしてしまったり、生きづらさや困難感が生じると発達障害と診断されることがあります。逆に、どんなに特性が強くても、本人も周囲の人々も特に問題が起きないような環境であれば発達障害と診断されないということもあろうこととなります。

発達障害の種類

発達障害には、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、学習症(学習障害)、チック症、吃音などが含まれます。これらは生まれつき、脳の働きに偏りが生じているという特性があります。生まれつきみられる脳の働き方の特性により、幼児のうちから行動面や情緒面に特徴が現れます。

特定のことは優れた能力を発揮する一方で、別の分野では極端にできないというバランスの悪さが見られたりします。そのため、両親が育てづらさを感じたり、子ども自身が生きづらさを感じたりすることもあります。同じ障害名でも特性の現れ方が違ったり、いくつかの発達障害を併せ持ったりすることもあります。

発達障害があっても、本人や家族・周囲の人が特性に応じた日常生活や学校・職場での過ごし方を工夫することで、持っている力を伸ばしたり、日常生活の困難を軽減させたりすることができます。特に近年では、ご両親がそういった子どもへの接し方を学ぶペアレント・トレーニングが注目されており、親子関係が改善したり、子どもの情緒や行動が改善したりと一定の成果を出しています。

◆自閉スペクトラム症(ASD)

対人関係が苦手で、コミュニケーションに困難さがあり、特定のことに強いこだわりを持つという特徴があります。感覚の過敏さを持ち合わせていることもあります。

一方で、特定の分野を深く追求できたり、好きなことへの高い集中力を発揮したり、決まったことを遂行する力は強かったり、ルールをきちんと守れたり、粘り強さがあつたり、感情に左右されにくかったり…等たくさんの強みも持っています。



それぞれの障害の特性

知的な遅れを伴うこともあります

自閉スペクトラム症 ASD

- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動
- 興味・関心のかたより

注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する(考えるよりも先に動く)

学習障害 LD

- 「読む」「書く」「計算する」等の能力が、一般的な知的発達に比べて極端に苦手

※このほか、トゥレット症候群や吃音症なども発達障害に含まれます。

参照：政府広報オンライン

早ければ1歳半の乳幼児健診で、その傾向を指摘されることもあります。

心理学的背景として下記が影響していると言われています。

- ・全体処理の遅延: 全体を理解するのに時間がかかる
- ・予測符号化理論: 予測がつかないと不安になる
- ・心の理論仮説: 他人の気持ちを読み取るのが苦手
- ・遂行機能障害仮説: 計画や柔軟な対応が苦手

◆注意欠如多動症(AD/HD)

実年齢に比べて、不注意(注意散漫、ケアレスミス)、多動性(落ち着きがない、じっとしてられない)、衝動性(思いついたら考えずに即行動、突然走り出す)が多いなどといった特性があります。



一方で、好きなことには高い集中力を見せたり、興味があることを深く追求できたり、発想力や創造性が高かったり、好奇心が旺盛だったり、直観力が優れていたり、行動力や決断力があるといった強みも持ち合わせています。多動性・衝動性と不注意のいずれか一方だけが認められる場合もありますが、両方が認められる場合もあります。

心理学的背景として下記が影響していると言われています。

- ・モチベーションの障害仮説: 興味がないことに対してやる気が出ない
- ・注意のネットワークモデル: 注意が移りやすい
- ・実行機能の障害仮説: 計画的に順序だてて行動することが苦手
- ・遅延報酬に対する過敏性仮説: 待つのが苦手ですぐに結果を求める
- ・自己制御理論: 自分の感情や行動をコントロールするのが難しい

◆学習障害(LD)

全般的な知的発達には問題がないのに、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの能力のうち、特定の学習のみに困難が認められる状態をいいます。

◆チック症

チックには、運動性チックと音声チックがあり、本人の意思とは関係なく起こってしまう素早い身体の動きや発声をいいます。まばたきや首を振るなどの運動チックや咳払いや鼻を鳴らすなどの音声チックが一時的に現れることは多くの子どもにあることで、そっと経過観察するだけでよいものです。注意や指摘をすると逆に悪化する可能性もあります。しかし、卑猥語や罵倒語を発する音声チック(汚言症)や、運動チックと音声チックが頻回に出現し1年以上持続するトゥレット症などは日常生活に支障を来すことがあり対応が必要になることがあります。

◆吃音

滑らかに話すことができないという状態をいいます。最初の音や音節をくりかえしたり(連発)、音が伸びたり(伸発)、なかなか話し出せない(難発)といった、さまざまな症状があります。幼少期に発症する発達性吃音が九割ほどを占めますが、疾患や心的ストレスなどによって発症する獲得性吃音も見られます。

どうしたらいいの??

次号に続きます。

日本人会クリニックでは、発達の相談や発達特性を持つ方のサポートを行っております。

●発達すこやかチェック

日本人会クリニックでは、お子さんの発達特性等をチェックする発達すこやかチェックを実施しております。ぜひ、この機会にチェックしてみたいかたがでしょうか。

●大人の発達チェック

日本人会クリニックでは、大人の方向けにも発達特性などをチェックすることが可能です。チェック後は各々の特性に合わせた対応法などのサポートも行っております。

●ペアレント・トレーニング

日本人会クリニックでは、発達に特性を抱えたお子さんを持つご両親や、より良い親子関係を構築したいと思うご両親へのお手伝いをさせていただきます。個別のカウンセリングのほか、ペアレント・トレーニングも行っております。

●ソーシャルスキルトレーニング

日本人会クリニックでは、個別のソーシャルスキルトレーニングを実施しております。それぞれのお子さんに必要なスキルを強化するお手伝いをしております。

●小集団療育

日本人会クリニックでは、小学生以上のお子様を対象に小集団(3人程度)の療育を行っており、集団のなかで必要となるソーシャルスキルを小集団での療育を通して学ぶお手伝いをしております。

●内服薬処方

日本人会クリニックでは、発達特性の症状に応じて、必要な方には内服薬の処方を行っております。内服薬の治療に適応があるのかも含め、お困りのときは我慢せずお気軽にご相談ください。

参考文献: いろんなかたちいろんなタイプ(岡山市発達障害支援センター)

文責・画像: 毛利由佳

プロフィール: 毛利由佳(もうり ゆか)
担当診療科: 総合診療科・心療内科

日本医師会認定産業医、公認心理師、日本外科学会元専門医、日本産業衛生学会会員、日本プライマリケア連合学会会員、日本精神科学会会員、日本心療内科学会会員、日本ライフスタイル学会会員、Physiological First Aidファシリテーター、認知症キャラバンメイト、チャイルドコーチング、チャイルドカウンセラー、家族療法カウンセラー

2022年1月よりシンガポール日本人会クリニック医師として勤務

